長岡中央綜合病院　倫理委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	気管切開術後のイメージ化を図る取り組み ～視覚的教材を用いた術前オリエンテーションの検討～
②　対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者・対象期間：頭頚部がん治療において気道閉塞予防のため一時的に気管カニューレを挿入した経験がある患者。緊急で手術したケース、認知症や認知機能低下がある患者は除く。R2～R5 年 5 月までの間に A 病棟に入院経験のある患者 26 名。 過去の研究：気管切開を行った患者が抱える入院生活上の困難（三国孝弘）	
③　概要	
現在、気管切開術後の苦痛に関する研究がいくつも挙げられている。術後間もない時は創部痛や喀痰吸引などの身体的苦痛、発声できずコミュニケーションの難しさなどから精神的苦痛もあり、術後の患者にかかる負担が大きいことがわかる。先行研究の一つに気管切開術後の苦痛を 17 のカテゴリーとして報告されている。これを参考に、術前オリエンテーションで気管カニューレ挿入後の生活について事前に説明を行っているが、入院や手術自体が初めてという方も多い上に、気管からの呼吸に代わり、発声できない、喀痰量が増えて吸引が必要になることはとても想像できないと思われる。実際にオリエンテーション後の患者からは「分からないことが分からないので任せます」と返答されることがある。十分に説明を行っていても、口頭での説明だけでは理解しきれず術後のイメージ化が図れていないことが推測される。さらに気管切開術後は「こんなに辛いと思わなかった」と言われることが多いが、想像以上に術後の苦痛が大きく落胆していると思われる。患者に生じる術後の苦痛を払拭することは難しいが、「辛いけれど、手術前に受けた説明通りだった」「想像通りだった」と少しでも落胆する気持ちを緩和できるような取り組みがしたいと考えていた。高齢の患者も多い中で説明内容を理解してもらうためには視覚的アプローチが必要と考えている。	
④申請番号	
④　研究の目的・意義	苦痛のカテゴリーを参考に視覚的教材を作成し検討することで、何に対するイメージがつかなかったのかを明らかにする。 術後のイメージ化が図れ、想定外の状態についての受け止めが現状より改善できるような術前オリエンテーションを目指す。
⑤　研究期間	2023 年 9 月～2024 年 3 月終了まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	アンケートの選択回答については単純集計をとる。アンケート結果、インタビューの内容から得たキーワードをカテゴリー化して分析し論文にまとめる。
⑧利用または提供する情報の項目	アンケート結果・インタビューからの内容
⑨利用の範囲	厚生連長岡中央綜合病院　5 階西病棟　早川モモ
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	5 階西病棟　看護師　早川モモ
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	厚生連長岡中央綜合病院　5 階西病棟　早川モモ　伊藤香那 0258-35-3700（代表）